

箏・琴・コト ～ 時を超えてきたその音色を辿って ～

かつて日本人の最も身近にあった楽器[コト]は、それぞれの時代に合わせて様々に変遷を繰り返しつつ現代まで脈々と、また伝来当時から殆ど姿形を変えずに大切に受け継ぎ弾き継がれてきました。変わりゆく歴史と深く密接に関わってきたこの楽器は、三味線等と並ぶ日本を代表する伝統楽器として世界的にも高く評価されていますが、果たして現代の我々日本人にとっての“伝統音楽”とは、今現在どのような位置に置かれているのでしょうか？

オリンピックを数年後に控えて、日本人が古来より受け継いできた“伝統”の持つ素晴らしさがより重視されるようになり、今まさに私たちのルーツが再確認・再認識されてきています。この度はその一つのきっかけとして、歴史を振り返りつつ、[コト]の音色をお楽しみ頂きたいと存じます。

(高島 一郎)

箏・三絃(三味線)・十七絃・20絃・胡弓 高島一郎 プロフィール

湘南高校64回卒業、東京藝術大学大学院音楽研究科修了
現在：生田流箏曲 箏道音楽院 副代表 兼 市川支部長
立正大学非常勤講師等



2012年に開催した箏リサイタル「ひむかしとりかふ」に対し、文化庁芸術祭賞〈優秀賞〉を受賞。15年には市川市民芸術文化奨励賞を受賞し、昨年4月に本賞と箏道音楽院副代表就任記念を兼ねた箏リサイタルを開催。多くの海外公演に参加、演奏だけでなく独自のカリキュラムでの授業や講習会、CD・その他の音楽監修等幅広く活動する。

プログラム

「乱輪舌」

八橋検校作曲

「ロンドンの夜の雨・衛兵の交代」

宮城道雄作曲

「讃歌」

沢井忠夫作曲

※ 曲目は変更になる場合がございます。予めご了承ください

